

熱気むんむん 内藤功弁護士を迎えた学習会 (11月4日 石岡)

「オスプレイ拒否・普天間基地撤去」実現の運動を！

講師の内藤功弁護士は、百里基地裁判闘争で弁護団の中心として活躍した方です。7月に行なわれた。県平和委員会の20周年記念集会でも、日本平和委員会代表理事として、来賓挨拶を頂いています。

内藤氏は、冒頭「なぜ多くの国民の反対を無視して危険なオスプレイを飛ばすのか。その根源は安保条約・日米同盟」と喝破し、自衛隊と米海兵隊の連携を進展させる日米の「動的防衛力」の新たな拡大の一環であることを強調しました。また「なぜ本土まで持って来るのか」として、「山岳地帯の多いアフガニスタンでの戦闘訓練のため。沖縄には山岳地帯がないため」と指摘しました。



2010年12月、政府は「新防衛大綱」を策定しました。米国防予算の削減で、米軍が日本への財政・経済・軍事・政治上の負担増の要求を強める中、自衛隊を周辺事態や島嶼(しょ)防衛等の「各種事態」に対応できるよう、10年規模で変革するとしています。また、今年8月の米海兵隊と陸上自衛隊の共同演習を実施、さらに11月5日から「南西諸島、東シナ海での日米共同統合演習」等の非公開の共同演習を行なうなどさらに強化されています。

内藤氏は、今年10月の自衛隊の観艦式で、野田首相は「かつてない状況、経験したことのない局面、プレッシャーを感じる場面」に備え、「動的防衛力を磨きあげよ」、あげくには「海軍の伝統」を口にし「一層奮励(ふんれい)努力せよ」の訓辞



に触れ、「主権者国民として、憲法を武器にたたかうのは今」と強調しました。さらに憲法前文にある「平和生存権」や13条の「幸福追求の権利」を見るまでもなく、オスプレイの強行配置や米軍凶悪犯罪多発こそ最大の主権侵害であり、08年の4月の名古屋高裁・イラク派兵差止め裁判の判決にあるように、「戦争の準備行為等によって、個人の生命、自由が侵害され又は侵害の危機にさらされ、あるいは現実的な戦争等による被害や恐怖にさらされるような場合、また、憲法9条に違反する戦争の遂行等への荷担・協力を強制するような場合は、裁判所に対して差し止め、賠償などの救済を求めることができる」のは当然の権利と強調しました。

約90分余の講演はあっという間に過ぎ、質疑・討論の際も、参加者のあいだから「そうだ!」「許せない!」の声も上がるなど、内藤氏の熱い語りに、参加者の思いが繋がった学習会でした。参加者からの質問や意見は引きも切らず、その多くが具体的な活動の中で提起された問題で、質問にも迫力があり、予定の4時を過ぎて終了しました。参加者は75人でした。

平和意見広告の取り組みをみんなでがんばりましょう!

・「平和かわら版」639号(11月5日号)を見た会員から、「意見広告」に対する電話がありました。

ひたちなか： 平和かわら版639号を見た。「平和意見広告」の実現目標が書いてあった。実現目標が、「5」とか「10」とかの地域もある。「各組織の状況と実績を勘案して決めた」となっているが、いかにも少ないと感じる。

「原発をなくせ」は県民の声だ。訴えれば多くの人が応えてくれる。事務局では、各平和の会に「もう少し広い人たちにあって賛同者を増やしてほしい」と要請してもらってもいいのではないか。

また、事務局では、一回りも二回りも大きなとりくみをするためにも、別のルートで働きかける等も考えてほしい。事務局が率先してもっと幅広いとりくみを支援すべきだとおもう。私個人でも、賛同を要請する人の10人や20人はすぐに思い浮かぶ。取り組みも始めている。事務局でも、もう少し広い人にあたっ

て、賛同者を増やすようにしてもらった方がいいのではないかとと思う。

「平和かわら版」では、各平和の会・平和委員会でのとりくみの進み具合やとりくみの様子を記事にしてみんなに知らせて、さらに奮起してもらえるようにしたら良いと思う。私も地域の人たちと力を合わせ、さらに頑張りたい。(11月7日)

つくばみらい： 今年はずっと新聞1ページの意見広告です。広告には賛同者の氏名を載せるのかな。私の経験では、賛同者の氏名を掲載すると、多くの人が関心をもって見てくれる。全一ページを使うのだから、やはり氏名を掲載した方がいい。

もちろん、匿名希望の人もあるので、それは希望に添って対応すればいいのではないかとと思う。考慮してほしい。(11月7日)

那珂9条の会 発足6周年記念学習会

講演 「沖縄」返還40周年～沖縄戦と米軍の占領、軍事基地とたたかう民衆の歴史～

講師：伊達 郷右衛門 氏 (茨城県平和委員会代表理事)

12月1日(土) 13:30より約2時間

那珂市横堀「ふれあいセンターよこほり」会議室

【どなたでも参加自由、無料です。】

平和新聞

2012年11月15日(木曜日)

2002号(毎月5,15,25日発行)

1950年12月16日第三種郵便物許可 発行 日本平和委員会
1部140円 月額400円 〒105-0014 東京都港区芝1-4-9 平和会館
(郵送料月額120円) 電話03(3451)6377 FAX03(3451)6277

平和かわら版 平和新聞茨城版 No. 640

発行：茨城県平和委員会 〒310-0912 水戸市見川5-127-281
Tel/Fax 029-251-2806 E-mail ibahei@amber.plala.or.jp

日米共同統合実働演習止めよ！ 11月5日に申し入れ

11月5日、航空自衛隊百里基地所属機も参加する日米共同統合演習に対し、「米軍機来るな茨城実行委員会」・百里基地反対同盟・日本共産党茨城県委員会は、百里基地を訪れ、それぞれ中止を申し入れました。申し入れには、県平和委員会・新日本婦人の会・農民連・日本共産党などの平和・民主団体が

ら約20人が参加しました。共同統合演習には、同基地所属のF15戦闘機やRF4偵察機などが他基地に移動して参加して、5日から16日にかけて、大規模に実施される予定です。

また、「F-4戦闘機からの部品落下事故」についても、原因の徹底究明と再発防止を申し入れました。

森本 敏 防衛大臣 殿

2012年11月5日

日米共同統合実働演習の中止を求める申し入れ書

防衛省は11月5日（月）～16日（金）の間、日米共同統合演習（実働演習）について、沖縄周辺海域などで、全面非公開で行うことを明らかにしました。この演習には陸海空自衛隊3万7000人、在日米軍約1万人が参加し、九州や沖縄などで行われるといひます。

茨城の航空自衛隊百里基地では、百里基地所属の航空機及びF-15戦闘機が5機程度千歳基地移動、同じく百里基地に所属するRF-4偵察機が3機程度新田原基地に移動する。また航空自衛隊新田原基地所属のF-4戦闘機が6機程度百里基地に移動するとしています。

実働演習は1986年度から始まり今回で11回目です。日米両政府は中国や北朝鮮の「脅威」をあり、米軍や自衛隊の増強が「抑止力」として重要だと強調しています。しかし「抑止力」とは、そもそも相手を「攻撃するぞ」と脅かして相手を黙らせることです。そのため、相手を上回る兵器を保有することが前提です。「戦争開始を前提としている」と言っても過言ではありません。

そもそも日米共同統合演習は、ソ連崩壊後、唯一の軍事・政治・経済大国になったアメリカの世界戦略の一環として実施されたもので、いわば冷戦時代の産物です。多大の予算を浪費し危険な戦闘訓練を行うことは、異常な騒音などで地元県民に大きな不安を与えるものです。

尖閣列島の領有権の問題でも、軍事力を用いた脅しによる解決でなく、平和、外交的な話し合いによって解決することが、国連憲章や国際社会の大原則です。日中間でいろいろな行き違いがあっても、話し合いのテーブルに着くことを優先する努力を行い、平和的に解決することが何よりも重要です。

私たちが野田内閣に強く要請するのは、今こそ日米安保条約中心の政治から日本国憲法に基づく政治への転換です。今回の日米共同統合演習は許し難く、怒りを持って抗議するものです。以下の項目について申し入れます。誠実に対応してください。

記

1. 「防衛」と言う名目で、実際はアメリカの戦争協力のための日米共同統合演習は、「戦争する国」への自衛隊強化です。日本国憲法と相容れないものであり、中止してください。
2. 騒音・事故の危険・生活不安など、日本国民の不安を万全の策で解消する手だてを取ってください。

以上

米軍機来るな茨城実行委員会
百里基地反対同盟



【申し入れを読み上げる
県平和委員会・木村
事務局長】



【シリーズ】わが街・わが会員

つくばみらい市／川上 文子さん

(つくばみらい平和の会)

福島原発事故の 被災地を視察



毎時1マイクロシーベルトを超える数値をきざむ飯館村をすぎ、51名の参加者を乗せたバスは、福島第一原発から20km圏内、視察地の南相馬市小高地区に入る。ここは4月から避難指示解除準備区域に見直され、立ち入りはできるものの、自宅に泊まることはできません。人影を数人みかけたものの、無人の街。デマンドタクシー発祥の地として、地域住民を運んだ商店街は震災で壊れ、そのまま放置されたことで更に崩れ落ちて痛々しい姿をさらし、1軒の店の前に「必ず小高で復興します」と書いた紙が貼られています。海岸近くに進むと、土台のみ残された家屋の残がいや津波に流された車があるまま、瓦礫は全く手付かずで各所に放置されています。

「ここで生後10ヶ月ぐらいの子どもの遺体を見つけました。右手は白骨化していました」と、5人の遺体を見つけたという地元南相馬市の渡部寛一共産党議員が、「あそこで」「ここで」とまさに命がけの救援活動を語ります。日常を奪われ、今までの歴史を全て奪い取られた人々の無念さ、痛み、推し量りえないその重さを実感させられます。地元根付いた議員だからこそなのか、共産党議員だからこそなのか、極限ともいえる震災後のすさまじい日々を、明るく冗談を交えながら話していた渡部議員が、「この福島の現実を1人でも多くの人に見て欲しい。その為にはどんなに忙しくても時間をとって案内します」と、涙を飲み込みながら最後に私たちに語りかけました。

内原・友部平和の会主催の 学習会

福島第一原発は今どうなっているのでしょうか？

講師：圓道 正三氏（日本科学者会議会員）

12月15日（土）13:00～16:00

笠間市立友部図書館2階視聴覚室

東海第二原発の再稼働問題を考えよう！

参加費：無料

【どなたでも参加できます。】